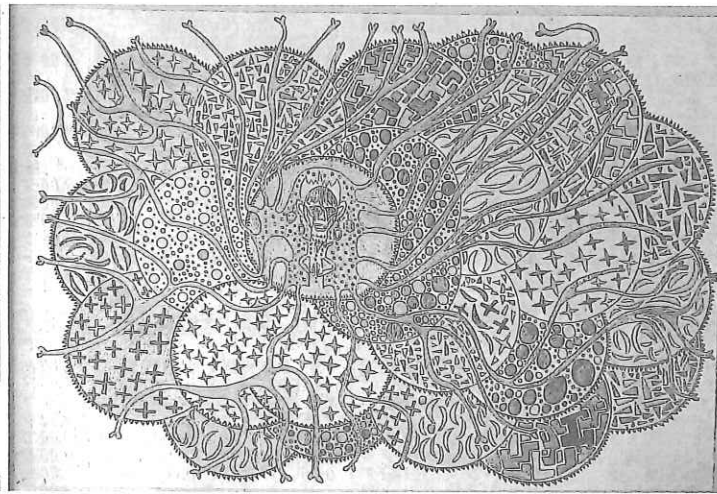


曼茶羅 走り出す絵心



②色鉛筆で作品を仕上げる山田さん(有田川町で) ①展示される山田さんの作品(県福祉事業団提供)

有田川の知的障害者 山田さん

有田川町長谷川のグループホームで暮らす知的障害者の山田勝成さん(48)が曼茶羅に着想を得た絵画を手がけ、注目を集めている。作品は13日から御坊市で始まり、県内の障害者の芸術作品を集めた「第4回オールプリュット和歌山展」で展示される。(道津保)

13日から御坊で作品展出品

山田さんは和歌山市出身。2009年、グループホームに入居し、近くの障害者福祉サービス事業所「おもと園」に通う。若い頃から絵を描き、バイクや車などを好んで題材にしていた。近年は、曼茶羅の写真集を見たことをきっかけに、着想を得てイメージを膨らませている。ボールペンで下絵を描き、30色以上の色鉛筆で彩色。最初に下絵を何種類も作ってから、気に入ったものを選んで仕上げる。1日で約6時間、画用紙に向かい続けることもある。「おもと園」支援員の松江直樹さん(38)は「ぱっと見て、山田さんの絵と分かる」といい、杉谷修園長は「色遣いや形をじっくり見てほしい」と話す。山田さんの作品は、アール・プリュット和歌山展のアーティストレクチャーを務める美術家奥野誠さん、佳世さん夫妻(田辺市龍神村)の目に留まり、第1回から展示されている。今回は3点を展示する予定で、同展のチラシやポスターにも採用されている。山田さんは「頭の中でイメージして下書きし、そのまま絵にしている。障害を

アート巡り 九度山楽しんで 多彩作品、各所に展示



陶芸作品などが並ぶ会場(九度山町で)

商店街など町全体を美術館に見立て、県内外の芸術家の絵画や彫刻、写真などを展示する芸術祭「くどやまアートウィーク2018」が九度山町で開かれていく。14日まで。道の駅柿の郷(くどやま)には、大西高志さんと池原悠太さんがビル街や動物などを組み合わせて描いた絵

持っている人も、こういう絵を描けるのを見てほしい」と話している。
* アール・プリュットはフランス語で「生の芸術」といった意味。障害者を含め既成の美術教育を受けていない人らの創作活動をさす。第4回オールプリュット和歌山展(県福祉事業団主

催)は13日〜12月25日、御坊市のきやろりなかがわ(旧中川邸)で開かれ、障害者約40人の絵画や立体作品、陶芸など約150点を展示する。山田さんら制作者が思いを語るギャラリートークが11月25日午後1時半から開かれる。無料。水曜休廊。問い合わせは県福祉事業団(0739・47・6640)へ。

画作品がある。慈尊院では西崇さんの陶芸作品などを紹介している。町内の美術愛好者らも参加しており、九度山商店街の店頭や民家縁側にも個性的な作品が飾られている。観覧は午前10時〜午後4時。一部会場を除いて無料。問い合わせは町産業振興課(0736・54・2019)へ。